



『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 心理学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学は、人間の心理や行動をめぐる様々な事象について、科学的に理解することを目指す学問であり、人間を援助することにつながる実践的な学問でもあります。心理学および関連領域の幅広い知識と分析的かつ柔軟な思考力を身につけ、多様化と情報化の進む社会のなかで、主体的に自らの能力を発揮できる卒業生を社会に送り出します。

具体的には、次のような能力と資質を身につけることを目標としています。

1. 幅広い知識と専門的知識、さらに物事を分析する技能を習得する。
2. それぞれの問題意識を実証的に解明しようとする態度・思考力・表現力を養う。
3. 主体的に、かつ、他者と協働して物事を行える力をつける。

2. 心理学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

認知、発達、臨床の各領域についての心理学の基本的な知見を身につけること、同時に、実証的な研究手法を学びながら、各自の関心のある専門性を深めることのできるカリキュラムを編成しています。

- ・2年次においては、心理学概論で認知、発達、臨床の3領域の基本的な知見を習得するとともに、実験演習や統計法の授業で実証的な研究の手法を身につけます。心理学実験演習では、クラスの全員が実験を行う実験者と実験を受ける実験参加者の両方を体験します。この授業では、学年を3クラスに分けて、教員の指導のもと、本学科を卒業した院生たちがインストラクターとして入り、きめの細かい指導が行われます。また、心理検査の目的や技法を学ぶ授業もあり、自分自身を知る手がかりになりますし、人間にはいろいろな特徴があり、個人個人の特徴はそれぞれ異なることを知ることもなります。
- ・3年次以降においては、各自が関心のある領域の教員のゼミナールに入り、その領域を核として、他の領域の科目や様々な関連科目を選択しながら、心理学の専門性を深めていきます。
- ・4年次においては、ゼミナールの教員の指導のもとで、各自の問題意識のもとに仮説を立て、実験や調査、観察によってデータを集め、その結果に基づいて卒業論文を作成します。自ら計画・実施し、今まで学んできた知識や手法を生かすことができます。

3. 心理学科の進学生・編入学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

心理学の特色である実証的な研究手法に関心を持ち、主体的に認知、発達、臨床の基礎的知識を学び、それをもとに各自の関心のある専門性を深めたいという学生を受け入れます。

本学科に進学または編入学を希望する学生には、以下のような力があることが望まれます。

1. 自らの問題意識に基づく粘り強い探求心をもっていること。
2. 主体的に学ぶ意欲と発信力
3. 他者と協働するのに必要なコミュニケーション力

2017年3月31日更新